

非鉄スクラップ展望

LME銅価格は9,000~10,000ドルを予測

橋本アルミ 橋本健一郎取締役 (非鉄金属リサイクル全国連合会会長)

米景気動向と中国の原料価格抑制策が焦点

7月のLMEと為替は、米国の経済および景気対策、中国の景気動向と原料価格抑制策に左右されそうだ。米経済については、6月24日にバイデン政権が超党派の上院議員と1.2兆ドル規模のインフラ投資で合意したことから、米国の景気は回復傾向が続くとみている。

一方、中国の景気動向と原料価格の抑制策については、6月中旬に発表された5月の中国工業生産の伸びが4月の9.8%から8.8%に鈍化したうえ、下旬に発表された工業部門の企業利益が同じく57%から36.4%へと大幅に減速した。中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策はあまり効果がなかったと言える。以上2点の動向には引き続き注意を払いたい。



橋本健一郎取締役

屋)は、銅建値が117万円の高値安定から一時106万円まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕があると見ている。需要面に関しては前月に続き半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的に見られず、生産は急増傾向にある。それに伴いメーカー各社はスポット買いに徹しているが、一部では入荷が悪いため、高値買いの傾向も見受けられる。

以上を踏まえ、7月のLME銅価格(セツルメント)は9,000~10,000ドルのレンジ、銅建値は104~111万円のレンジと予測している。

銅スクラップの国内概況、景況予想

7月の銅建値は前月末から据え置きのおおたり109万円、LME銅価格(セツルメント)は6月中旬から121ドル安の9,342ドルでスタートした。

国内の概況を見ると、5月の国内自動車生産台数は前年比64.1%増の47万2000台。6月の国内自動車販売台数(軽除く)は23万4697台で同9.2%増となったほか、5月の新設住宅着工戸数は同9.9%増の7万178戸で3カ月連続の前年増となった。自動車については生産が急増しており、半導体不足の影響はないと認識している。今後も生産、販売共に増加していくのか注視したい。

また、5月の伸銅品生産は同27.5%増の6万1410トンで5カ月連続の増加。14品目すべてが前年同月の実績を上回った。5月(推定)の銅電線出荷量も同9.1%増の4万5900トン。うち国内向けが同8.2%増、輸出向けが同80.4%増だった。どちらも今後プラスが続くのかどうか注視したい。

銅スクラップの景況感としては、流通在庫(一次問

アルミスクラップの国内概況、景況予想

指標となるLMEアルミ価格は6月中旬から22ドル高の2,481ドルで7月をスタートした。

5月のアルミ圧延品生産出荷は板類・押出類の生産合計が前年同月比22.8%増の15万5062トンと5カ月連続の増加。また、5月のアルミ二次合金・同合金地金等生産実績も同66.8%増の6万507トンで7カ月連続の増加。出荷も同67.4%増の6万407トンで7カ月連続の増加だった。どちらも今後プラスが続くのかどうか注視する必要がある。5月のアルミ輸出に関しては、相場の急騰や外需が比較的好調だったことを受け、アルミ缶以外は大幅増。輸入についても国内自動車販売の好調から大幅増となった。

アルミスクラップの景況感としては、流通在庫(一次問屋)は、LMEアルミ価格が2,400~2,500ドル台で高止まりしたことから玉不足は続いている。需要面については前月に続き販売が堅調なことによる材料不足や国際相場の高騰に伴う輸入玉の不足で、メーカー各社の在庫は希薄と言える。

以上を踏まえ、7月のLMEアルミ価格は2,400~2,600ドルのレンジ。スクラップ購買(前月最終価格より)は据え置きから+5円程度と見込んでいる。

7月銅予想レンジ		基調
LME銅セツルメント	9,000~10,000ドル	揉み合い
銅建値	1,040~1,110円(円)	揉み合い
為替	1ドル=109~111円(1カ月間TTM)	円安

7月アルミ予想レンジ		基調
LMEアルミ現物後場買い	2,400~2,600ドル	揉み合い
スクラップ価格	据え置き~+5円	強い
為替	1ドル=109~111円(1カ月間TTM)	円安